

県内9酪農団体統合へ

TPP視野 海外勢に対抗、合理化図る



工場廃止も検討されている淡路島酪農農業協同組合の工場—南あわじ市

県酪農農業協同組合連合会(神戸市)が、県内の5酪農組合と4農協にある酪農部門を統合し、新組織を発足させる方針を固めたことが2日、関係者への取材で分かった。酪農家の高齢化や後継者不足に加え、日本が環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)に参加して低価格の海外産品が入ってきた際に対抗するため、組織の合理化を図る。

関係者によると、同連合会の今年6月の総会で統合の基本方針が承認され、8月下旬に新組織の体制を検討する発起人会が発足、早い時期の統合を視野に事業内容など組織づくりを進める。

統合が予定されているのは淡路島(南あわじ市)▽東播(小野市)▽西播(姫路市)▽兵庫丹波(丹波市)▽北丹(豊岡市)の5酪農協と、JA兵庫六甲

(神戸市北区)▽淡路日の出(淡路市)▽みのり(加東市)▽たじま(豊岡市)の4農協の酪農部門。

平成18年度から25年度の間に、県内の酪農家は714戸から414戸、生乳生産量も13万3千トから9万6千トに減少。酪農や後継者不足で組合員が減るなか、組織も合理化が必要と判断された。

合併ではなく、現在各組合に加盟している酪農家が新組織に新たに加盟する形で、各組合の設備などは新組織に引き継がれない。このため、生乳工場を持つ2酪農組合のうち、兵庫丹波酪農協は工場を別会社に移行させる方針を固めた。

昭和53年から独自ブランド「淡路島牛乳」を生産している淡路島酪農協は、電気料金や原材料の高騰で24、25年度と工場の赤字が続いており、8月31日の臨時総会で工場廃止の動議が可決された。一方で合理化や生乳納入価格を上げるなどの黒字化を目指す事業計画も可決されており、工場分社化も含めて今後検討していく。

6年連続黒字見込み

25年度県決算 税収増、人件費減

県は、平成25年度一般会計の決算見込みを発表した。企業業績の回復などを反映して税収が伸び、行財政改革による人件費削減などにより、実質単年度収支は4億2千万円の黒字(前年度比7100万円増)で、6年連続の黒字となった。

歳入は1兆9649億円(同0・3%増)。地方債



「術中はまらず企業防衛を」

建設業界が暴排決議採択

建設業 建設業をめ出そう。開放協議日、研修真。暴力不当要求などとして、を採択し、研修会から85人が憲一署長にはまる衛に努めかけた。警本部の情勢に当要求の1マにされた。



高級ホテルで知られる「ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド」は一年を5期に分けて県内五国(但馬、播磨、摂津、淡路、丹波)の食材を使った

地産地「笑」で盛り上げる

県内の食材使用 「五国の味めぐり」



レモンの生産者と話す鎌田総料理長。常に生産者のもとを訪ねて食材をチェックするのだという

「五国の味めぐり」ということが重要。生産者になんばってもらう分、こちらも使い続け、お互いに良いものを目指したい」と話す。

震災後、神戸市の都心ウオーターフロント事業の中心として開業した経緯から、神戸の経済、兵庫の元気を盛り上げることを「使命」と考えている。地産地消の取り組みは生産者とホテル、利用者を「笑顔」にする、地産地「笑」として

旅の目的になることを目指してきた。全室スイート仕様でオーシャンビュー。レ



ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランドの外観。全室オーシャンビューで夜景が美しい

広報担当の矢崎達則さんは「日本一のホテルを神戸から目指しています。まだが快適に完結できるように、まだこれからです」と胸を張った。

短信

■モロゾフ、定番焼き菓子リニューアル 洋菓子大手・モロゾフ(神戸市東灘区)は、定番の「木の葉」をモチーフにした焼き菓子「フィアージュ」を約30年ぶりにリニューアルした。昭和61年に発売されたロングセラー

ルクチョコだけだったが、ホワイトチョコとスイートチョコ味を増やした。6個入り(税込み540円)から36個入り(同3240円)まで6種類がある。問い合わせはお客様サービスセンター

広報マネジャーの矢崎さんは「伝統や歴史をこれから作っていく伝説の途中にあるホテル」という。さすがにミシュランガイド関西で「最上級の快適さ」4年連続受賞。サービスマンのほとんどが若く、さわやかで、ホテルも若々しい印象でした。(ほ)

ひまわり